

WÖRTERBUCH
DER
DEUTSCHEN
UND
JAPANISCHEN
SPRACHE

SANSIUSYA

Wörterbuch
der
deutschen und japanischen
Sprache

Deutsch-Japanisch

現代独和辞典

ロベルト・シンチンゲル

山 本 明
南 原 実
共 編

現代独和辞典

1985年2月1日 第1,098版発行

定価 3,400円

編者 ロベルト シンチンゲル
(学習院名誉教授)

山 本 明
(東京大学教授)

南 原 実
(信州大学教授)

発行者 前 田 完 治

発行所 株式会社 三 修 社

110 東京都台東区下谷1-5-34

電話 東京 842-1711(代)

振替口座 東京 9-72758 番

印刷 三英印刷株式会社 / 製本 牧製本印刷株式会社

編者との
契約により
検印廃止

ISBN 4-384-00001-4

Printed in Japan

序

半世紀近く日本の学生諸君にドイツ語とドイツ文学の講義をしてきた私は、その間数多くの共通した誤解を経験したが、それは主として文法知識が確実でなかったり、日本語あるいは既習の英語の語法からの類推に基づく誤解であったり、一部はまた独和辞典の誤用によるものであった。

外国語と母国語の二か国語辞典で、語義をどのような順序で配列するのかという問題は、見出語の選択基準と並ぶ最大の問題である。原義をまずあげ、そこから派生してきた意味、転用された比喩の意味を後にするという語原論的配列法もあれば、古義に始まり現代用いられている意味に終わるという語史的配列法もある。あるいはまた、べつに原則を立てないで、列挙することもありうる。他方、辞典の使用者の側から考えてみると、最初にあげてある語義が今日でもそのまま通用しているものにとどめることがしばしばある。辞典の誤用によるこのような誤りをなくすために、別な原則による新しい独和辞典を編集する必要があることを、私は早くから痛感していた。このような辞典を実際に出版する可能性があるかどうか、またどういう手順で仕事をすすめることができるかというような点について、私が山本 明と話したのはもうずいぶん前で、1950年のことであった。だがこの計画は一時中止せざるをえなくなった。私が執筆者に予定したのは私の東京大学時代の教え子である山本 明、南原 実両君だが、両君があいついで留学のため渡独してしまったからである。古典文学についての基礎知識の上に立って、両三年の滞独中にドイツ語の現代の語法についても十分に注意を払ってきた両君の帰国をまって、私は再びこの計画をとり上げ、1956年から作業に取りかかった。

山本が独和の部を、南原が和独の部を主として担当したが、私たち三人は少なくとも週二回は会合し、一語一語、三人で話し合って検討した。私自身は独和、和独の両方に、語感や、語義のニュアンスという点で助言した。意見が分かれた時は、私が最後の断を下した。

私たちの原則あるいは目標に従って、この辞典には次のような特徴があるといえる。

1. 見出語について：基本的な語の他に、かなりの数の合成語も見出語として採用した。とくに技術と経済の交流の著しい現代の事情にかんがみ、工業技術や経済関係の語は相当数見出語とした。一方古典的な文学作品を読むのに必要な語(たとえばゲーテの *morgenschön* とかヘルダーリンの *Haide* など)も採録したので見出語数は約九万五千五百となった。

地名や人名はしばしば混乱を生ずる(たとえば都市名 *Halle* が「広間」とられるなど)ので、ドイツの著名な人物の名(とくに詩人、作家、芸術家)、ドイツの地名で重要と思われるもの、国名、首都名は見出語としてあげた。

なお略語はまとめて巻末にあげた。

2. 発音について：ドイツ語の発音で最も重要なのはアクセントである。従ってアクセントと、発音に重要なかわりをもつ音節の切れ目を明示した。なおその上音標文字で発音を示した。

3. 語義について：語義を通時的に記述するべきか、あるいは共時的に記述するべきかという問題は簡単に答えられるものではない。しかし私たちは、今日ももっともふつうに用いられている語義をまず最初にあげ、他方、一部の地方でしか用いられない語義、古い語義、一部の特殊な層でしか用いられない語義などは後に回し、それぞれ《方》とか《雅》とか《古》とかその他の記号によって示すことを原則とした。

また語の使用層（くだけた話しことば、堅苦しい書きことば、高尚な言い方など）の区別に留意し、《俗》、《書》、《雅》などの記号で示した。

すでに固定した訳語（たとえば Erbkönig に対する「魔王」）を尊重する一方、できるだけその語のニュアンスを伝える日本語を選ぶ努力をした（たとえば卑俗な語 abkratzen に対して「くたばる」）。

ドイツ語では語の支配関係（とくに前置詞）が重要でありまたむずかしいので、語訳の後ろで支配関係を明示した。

4. 文例について：ドイツ語と日本語はその構造が根本的に異なっているし、またドイツ語の語義はコンテクストの中で始めて明確に示されることが多いので、多くの文例が必要である。しかし紙面のつごう上、与えられた語義から直接意味がとれる文例よりもむしろ慣用句の採録に重点をおいた。

この辞典は独和と和独が並行して執筆されたが、さまざまな理由からひとまず独和の部を先に刊行することになった。

人間の仕事に完全無欠ということはありえない、ご好意ある批評は感謝の気持ちでお受けしたいと思う。

最後に、校正に多大の努力をされた角谷善朗氏に、また私たちの仕事を理解し、この辞典を世に送り出して下さった三修社の方々にお礼を申しあげたい。

1972年 秋

ロベルト シンチンゲル

独和の部の執筆に際して資料を提供していただいた Deutsche Forschungsgemeinschaft と Inter Nationes にここで心から感謝の意を表しておきたい。

1972年 秋

山 本 明

使用上の注意

見出語

1. 形容詞として用いられる過去分詞や名詞として用いられる形容詞なども独立の見出語として扱い、例外なく ABC 順に配列してある。

別系であるが同形という語が二つ以上ある場合は、見出語を一つとし、**I, II** などのローマ数字で区別した：例 **Acht**。

ただし、たとえば動詞 **sein** と所有代名詞 **sein** では、動詞 **sein** の方には活用の記述があるために別見出しとなっている。同じく動詞 **'modern** と形容詞 **mo'dern** はアクセントのある音節の位置が異なっているので別見出しである。また形容詞としても用いられる過去分詞が不定詞と同形の場合は、大番号で区別して追いつ込んである：例 **er'fahren**。分離または非分離で用いられる複合動詞はアクセントのある音節の位置が異なるので別見出しとしてある：例 **'durchreisen** と **durch'reisen**。

2. 語の合成要素と派生要素は、それが分綴点と一致する限り・で切ってある：例 **'Ab-bau**, **'Fröh-lich-keit**, **'An-schau-ung**, **'Mus-ikel**, **All-er'gie**。従って **'Teil-ung** とはしない。分綴点と一致しないからである。またそれがアクセント記号 ' と重なるとき・はつけていない：例 **be'kommen**。ただし **'ab|be-kommen**。

Schiff と **Fahrt** の合成語 **Schiffahrt** のように分綴されるととの語形に戻る語では **'Schif-fahrt** とし、分綴すると **Schiff-fahrt** になることをとくに示した。また **lackieren** のような語ではアクセント記号を **lac'kieren** と置き、分綴されると **lak-kie-ren** となることを注意してある。

合成語ではそれぞれの合成要素が独立の語として存在している(例：**'Haupt-bahn-hof** → **Haupt** + **Bahn** + **Hof**) ので問題はないが、派生語の場合は、派生要素が現在の言語生活でもなお派生語をつくる能力があるかないか、派生要素と感じ取られているかどうかの判断によってむずかしい問題をはらんでいる。たとえば **können** → **Kunst** → **künsteln** → **gekünstelt** の **-st-eln** や **-st-elt**, **Gestade** の **-de** と **Begierde** の **-de**, **Freude** や **Friede** の **-de** と **Behörde** や **Beschwerde** の **-de**; **Rekonstruktion** の **Re-** と **Religion** の **Re-**; あるいは **Kunde** から派生した **kundig** の **-d-ig**, **stehen** から派生した **Ständer** の **-d-er**, **sehen** から派生した **sichtig** の **-t-ig** の扱いなどである。このような場合 **-dig** や **-der** や **-tig** という形が派生語尾であるかのような誤解を生じるおそれがあるため原則に固執することは避けた。

3. 見出語の反復される合成要素は **・** で切り、反復される部分は **..** で示してある：例 **'Sinn-gebung** … **..ge-dicht**。ただし語頭の小文字が大文字に、大文字が小文字に変わる場合はそのたびごとに全書してある：例 **'Ab-änderungs-an-trag** … **'ab-änderungs-fähig** … **'Ab-änderungs-patent** …。
4. 見出語の全体を用例中で反復して用いるときは **～** の記号で示してある：例 **'Wasser-ent-ziehung** … **..fall m** 滝。// **wie ein ～ reden** では、この **～** は **..fall** ではなく **Wasserfall** を表わす。

発音

1. アクセントを ' で示し、アクセントのある音節の前に置いてある：例 **'aus|gehen**, **musi'kalisch**。

ただし音節一つの語にはつけてない：例 **an**。また格変化で二音節となる場合もつけてないからその場合は語幹にアクセントを置いて発音されたい：例 **Weg m** [-e]s/-e では二格 **'Weges**, 複数 **'Wege** となる。**'Doktor m** -s/Dok'toren では複数ではアクセントが移動して **Dok'toren** に、**Mode'rator m** -s/..toren では **Moderat'toren** になることを示している。

アクセントに異同があるときは、必要と思われるものだけに限り、二つ(またはそれ以上)をとくに示してある：例 **'passiv** [-'pasiv, pa'siv]。

- 長く発音される母音(aa, ee, oo, それに ie を含む)はその母音の下で示してある:
例 **'baden** ['bɑ:dn̩], **Aal** [a:l], **Beet** [bɛ:t], **Boot** [bo:t], **'lieben** ['li:bn̩],
'nehmen ['ne:mn̩] 等.
- 分音のしるしは e の下に .. をつけて示してある: 例 **Fa'milië** [fa'mi:liə] ([fa'mi:li:]
ではない), **'in-of-fiziëll** ['ɪn'ɔfiziəl] ([ɪn'ɔfizi:] ではない).
- 発音に二とおり(またはそれ以上)ある場合は、とくに必要でない限りふつうに用いられ
る方を採用した.
- 語中の声門閉鎖音(音節として切れる所)を ' で示した: 例 ['un'aphɛŋɪç].

語義

- 今日ふつうに用いられている語義を始めにあげ、特殊な語義(方言としての語義, 術語と
しての語義, 古い語義)を後の方にあげてある.
- 語義を大きく分類するときには ❶ ❷, ① ② などの番号で大別し、そうでないときは
; で区切った. ❶ ❷ や ① ② は検索の便を考慮して用いた.
- 語の支配を示す必要のあるときは、訳語の後ろの () 内で示してある: 例 **ver'zichten**
i 始めからあきらめる… (*auf etw* ある事を).
- 語および語義の使用の層を示すために、種々の記号を用いた.

《古》 今日のドイツ語では用いられない語、または語義.

《俗》 卑俗な話しことばで、礼儀正しい会話やあらたまった場所などでは用いない方
がよい語、または語義.

《卑》 《俗》よりもさらに悪い語、または語義. 日常会話や手紙などではこの記号の語
ないし語義を用いることは慎む方がよい.

《書》 堅苦しい書きことばで、官庁の文書、事務的な手紙や論文などでよく用いられ
る. 従ってくつろいだ会話などで用いられると、しばしばこっけいな印象を与え
る.

《雅》 文芸作品で用いられる雅語、高尚な、あるいは格調の高い語または語義.

その他

《戯》 戯語、ユーモラスな表現.

《方》 方言、特定の地域でのみ用いられる語または語義.

《比》 比喩的用法.

《反》 反語的用法、ひにくない方.

《まれ》 まれにしか用いられない語または語義.

《児》 子供が用いる語または語義.

《学俗》 学生仲間の俗語.

これらの記号で示された語または語義が、その層をはずれて用いられるのは、ある特殊な文体上の効果(たとえば古めかしい印象を与えようとしたり、ひにくない味を出そうとしたりする)をねらっているからである. われわれ日本人が外国語としてのドイツ語で書いたり話したりするときは、《古》, 《俗》, 《卑》, 《書》などの語や語義を使用する時と場所と場合に注意する必要がある. また《古・方》とあるのは、ほんらいは古語または古義であるが、地方によっては今日でも用いられていることを示す.

用例

- 用例は語義の後にまとめてあげた. 語訳から直接わかる用例はおおむね省いた.
- 用例が多くて検索に不便な場合は、その見出語が密接に結びつく他の語の ABC 順に配列したり、ボールド体にしたりしてある.
- 用例の名詞にはとくに不定冠詞が必要でない限り、格を明示するために可能な限り定冠詞を添えた. また形容詞と名詞だけの用例では、紙面の節約のためしばしば冠詞を添えないであげた. 従ってこれらの用例を和文独訳に活用する場合は冠詞の用法に注意されたい.
- 用例と用例の区切りは / で示してある. ただし同じ意味となる用例が二つ並ぶときは / で区切り、一方にだけ訳語をつけてある.

動詞

1. 記号

- t* Transitiv 他動詞(四格の目的語を必要とする動詞).
i Intransitiv 自動詞(四格の目的語を必要としない動詞).
r Reflexiv 再帰動詞(四格または三格の再帰代名詞を必要とする動詞).
imp Impersonale 非人称動詞(非人称の主語 *es* を必要とする動詞).
inf Infinitiv 不定詞.
ppr Partizip des Präsens 現在分詞.
pp Partizip des Perfekts 過去分詞.

2. 不規則に変化する動詞は * 印で示し、過去および過去分詞の幹母音を / で区切ってあげてある: 例 **'gehen*** [ˈɡeːən] i/a. i は過去 *ging* の幹母音, a は過去分詞 *gegangen* の幹母音を示している.

弱変化(規則変化)する場合もある動詞は (*) で示し、過去および過去分詞の幹母音も () に入れてある: 例 **'senden**(*) (a/a). a/a は過去および過去分詞の *sandte*, *gesandt* の幹母音である.

意味によって強変化として用いられったり、弱変化として用いられったりする語では、語義の前にそのことを示してある: 例 **'senden**(*) ... ① ... ② (弱変化) ... ① の意味では *sandte*, *gesandt* も, ② の意味では *sendete*, *gesendet* が用いられることを表わす.

弱変化動詞でも、とくに注意すべきものは注の形で示してある: 例 **'früh-stücken** の項で ☆ *pp* *ge'früh-stückt*.

なおこのような過去や過去分詞は見出語としてあげ → 印で不定詞を指示してあるが、詳しい変化は強変化および不規則変化動詞表を参照されたい.

3. 分離動詞は分離前つづりの後ろに | を入れて示した: 例 **'aus|ziehen***.

非分離動詞では語幹の前にアクセント記号 ' が置かれている: 例 **ver'gehen***.

4. 完了の助動詞として *sein* をとる自動詞には (s) の記号を、意味により *sein* あるいは *haben* をとる自動詞には (s, h) または (h, s) の記号をつけてある. 紛らわしい場合に限り (h) の記号をつけ、それが完了の助動詞として *haben* をとることを示してある: 例 **'gehen*** i/a i (s); **'knacken** ② i (h, s).5. 四格の再帰代名詞を必要とする再帰動詞には (*sich*) を、三格のそれを必要とする再帰動詞には (*sich*⁽³⁾) を添えて示した.6. 一つの動詞が他動詞としても自動詞としても用いられるような場合は、① ②, ① ②などの番号で区分した. 簡単な場合は *i, t* または *t, i* などで示してある.

7. 動詞から転成した語(名詞化された不定詞, 現在分詞, 過去分詞)のうち, 使用頻度の大きいものはそれぞれ独立の見出語としてあるが, 独立の見出語にするほどの重要性が認められない場合は, 動詞の用例の中にあげた.

形容詞として用いられる過去分詞が別見出しになっている場合, それが不定詞の直後にあれば, *pp*, *a* の記号で, その語が過去分詞であり, また形容詞として用いられることを示した. それが不定詞の直後にない場合は, 別に不定詞を示してある: 例 **reizen** の項では (→*gereizt*) を, **ge'reizt** の項では *pp* →*reizen* をあげてある.

弱変化する非分離動詞や *-ieren* に終わる動詞の過去分詞形は, 三人称単数現在の形, 二人称(親称)複数(*ihr*)の現在形と一致するが, 記号としてはただ *pp* のみをあげてある.

名詞

1. 記号

- m* Maskulinum 男性名詞.
f Femininum 女性名詞.
n Neutrum 中性名詞.
sg Singular 単数[名詞].
pl Plural 複数[名詞].
dim Diminutiv 縮小詞.

2. 性が一定しない名詞では, 一方を < > 内で示してある: 例 **'Filter** *m* <*n*>; **Ge'halt**

n <《俗》*m*>; **Gams** *m* <《俗》*n*>.

3. 格変化はすべて単数二格と複数一格をあげ、両者を / で区切つてある：例 **Tisch** *m* -es/-e 単数一格 (der) Tisch, 同二格 (des) Tisches, 複数一格 (die) Tische であることを示している。

単数では変化語尾をとらない女性名詞では、単数二格は - で示してある：例 **Tante** *f* -/-n. 単数二格 (der) Tante.

複数としては用いられない名詞では、/ の右側の複数の欄を空白にしてある：例 **Acht** *f* -/ .

格変化によって語の一部が変わるときは、全書するか、あるいは一部を .. で省略してあげてある：例 **Bauch** *m* -[e]s/'Bäuche. **Akade'mie** *f* -/..'mi:en 複数の形は Akademien で発音は [akade'mi:ən].

格変化が一定しない場合は、別形をく > に入れて示してある：例 **Ahn** -[e]s <-en>/-en. Ahn の二格は Ahn[e]s または Ahnen; **Herr** *m* -n<《まれ》-en>/-en.

性および格変化が二とおりあるときは、一方をく > 内に入れて示してある：例 **Gabar'dine** *m* -s/ <f> -/ >; **Hy'bride** *f* -/-n <m> -n/-n.

意味によって性あるいは格変化が異なる名詞では、区分け番号の後ろに示してある：例 **Balg** *m* ⑧ *m* <n> -[e]s/'Bälger.

4. 複数で用いられる名詞は *pl* で示してある：例 **'Leute** *pl*.

ふつう複数として用いられる名詞は注としてそのむね示してある：例 **'Akte** *f* -/-n

☆ ふつう *pl*.

5. 名詞として用いられる形容詞は [▽] の記号で示してある。その格変化は形容詞の格変化とまったく同じである。人の場合は：例 **Ge'lehr-te[r]** [▽] *m, f* としてあげてある。事物の場合は：例 **'Beste[s]** [▽] としてあげてある。

6. 固有名詞にも性を示す記号をカッコに入れて添えてある。そのカッコがない固有名詞は、かならず定冠詞と用いられるものである：例 **Bonn** (*n*) -s/ ; **'Balkan** *m* -s/ ; **'Elsaß** *n* - <'Elsasses>/ .

固有名詞では一応、単数二格の格変化語尾 -s をあげてあるが、ただし -s, -sch, -ß, -tz, -x, -z に終わる固有名詞には二格のときの語尾は示していない。詳しいことについては、付録の文法の解説を参照されたい。

7. 派生語尾 -in を付けて造られる女性名詞は、とくに必要でない限り、すべて男性名詞の項に ☆ *f* ~in の形で、また -in を付けることによって男性名詞の時の形が一部変わる場合は全書して示してある：例 **'Dichter** *m* ☆ *f* ~in. **'Erbe** *m* ☆ *f* 'Erbin. 派生語尾 -in を持つ女性名詞の格変化はすべて -/-nen である。

8. 縮小の派生語尾 -chen (とくに北ドイツで多く用いられる) または -lein (南ドイツで、またしばしば雅語として用いられる) を持つ名詞は、とくに必要と思われる語に限り見出し語として出してある。それ以外はすべてもとななる名詞の項に注記してあるが、-chen または -lein を付けて、一部語形が変わる場合に限ってある。またふつう -chen の方で代表させてある：例 **Hof** ☆ *dim* 'Höf·chen; **'Knabe** ☆ *dim* 'Knäb·lein.

-chen または -lein を持つ名詞はすべて中性名詞で、その格変化は -s/- である。

9. 格の表示(代名詞もこれに準じる)

一格 Nominativ.

二格 Genitiv.

三格 Dativ.

四格 Akkusativ.

形容詞、副詞

1. 記号

a Adjektiv 形容詞.

adv Adverb 副詞.

adv-I Interrogativadverb 疑問副詞.

adv-R Relativadverb 関係副詞.

2. 形容詞はほとんどすべてそのまま副詞としても用いられるので、とくに必要でない限り形容詞としての語義だけをあげてある。
必要あれば番号で区分して、形容詞としての語義と副詞としての語義を別々にあげてある。簡単な語では *a*, *adv* と並記し、訳語も並記してある。
3. 不規則な比較変化をする形容詞・副詞、比較変化で多少語形が変わる形容詞・副詞は *印で示してある。(*) は規則的にも不規則にも比較変化する形容詞である。
4. 語尾変化しない形容詞では語尾変化しないことを注記してある：例 *'rosa* … ☆ 語尾変化しない。
5. 用法が限られる形容詞では「☆ 付加語としては用いられない」、「☆ 述語としては用いられない」ことを注記してある。

冠詞, 代名詞, 数詞

1. 記号

- art-B* der bestimmte Artikel 定冠詞.
art-U der unbestimmte Artikel 不定冠詞.
prn-P Personalpronomen 人称代名詞.
prn-Rf Reflexivpronomen 再帰代名詞.
prn-Rz reziprokes Pronomen 相互代名詞.
prn-Ps Possessivpronomen 所有代名詞.
prn-D Demonstrativpronomen 指示代名詞.
prn-I Interrogativpronomen 疑問代名詞.
prn-R Relativpronomen 関係代名詞.
prn-Ind Indefinitpronomen 不定代名詞.
num-K Kardinalzahlen 基数詞.
num-O Ordinalzahlen 序数詞.
num-U unbestimmtes Zahlwort 不定数詞.

2. この記号以外の数詞は形容詞扱いとした。
3. 基数詞の一般的な用例は *acht* の項にあげてある。
4. 序数詞は -t または -st を付けた形を見出語としてある：例 *siebt*.

前置詞

1. 記号

- prp-2* Präposition mit Genitiv 二格支配の前置詞.
prp-3 Präposition mit Dativ 三格支配の前置詞.
prp-4 Präposition mit Akkusativ 四格支配の前置詞.
prp-3.4 Präposition mit Dativ oder Akkusativ 三・四格支配の前置詞.

2. 格支配に動揺のある前置詞や、後置される前置詞は、そのむね特に注意してある。

接続詞

記号

- cj-K* koordinierende Konjunktion 並列の接続詞
(この接続詞をもつ文では定動詞は正置).
cj-S subordinierende Konjunktion 従属の接続詞
(この接続詞を文頭にもつ文は従属文節(副文)で、定動詞は後置).
cj-A Konjunkionaladverb 接続詞的副詞(副詞的接続詞)
(この接続詞は他の副詞と同じように扱われる。従って文頭に置かれた文では、定動詞は倒置).

間投詞

1. 記号

- int* Interjektion 間投詞.

2. 間投詞でも見出語には感嘆符！を添えていない。
3. ほんらいの間投詞の他に擬声語もこの中に含めてある。

符号、記号

- つねに用いられるハイフン：例 **D-Zug** (Dzug ではない)。
- ～ 用例の中での見出語の反復(用例の項参照)。
- … なにに、だれそれ：例 *solch eine Krankheit, daß* … …であるような(そんな)病気。
- .. 語の一部の省略：例 **'Im-biß** *m ..bisses/..bisse* は Imbisses/Imbisse を表わす。
- .. 見出語で反復される部分の区切り(見出語の項参照)。
- ˈ アクセント、強く発音される音節の前に置いてある(発音の項参照)。
- * 強変化、混合変化、不規則変化動詞を示す(動詞の項参照)。
比較変化で多少とも語形が変わる形容詞・副詞および不規則に比較変化する形容詞・副詞(形容詞・副詞の項参照)。
- (*) 強変化と弱変化の両形がある動詞を示す(動詞の項参照)。
規則的な、または語形が変わる比較変化する形容詞を示す。
- ▽ 名詞化して用いられた形容詞(名詞の項参照)。
- ・ 分綴点と一致する合成要素、派生要素の区切り(見出語の項参照)。
二つ以上の語を同等に並べるとき：例《古・方》。
- | 分離動詞で、分離する前つづりの切れ目(動詞の項参照)。
- I, II, III 同じ語形だが、別系の語の語義を分ける時(見出語の項参照)。
- ① ② ① ② 語義ないしは語の用法を分ける時。
- ; 語義の区分。
- , 同じ、または似た語義の並列。
- 参照せよ、見よ。
- = 同じ。
- ☆ 注、注意せよ。
- // 用例の始め。
- / 用例を大きく区分する時。
- / 用例と用例の間を区切る時(用例の項参照)。
名詞の格変化で単数二格と複数一格との間の区切り(名詞の項参照)。
不規則に変化する動詞の過去と過去分詞の幹母音の区切り(動詞の項参照)。
- / 同じ意味の用例を二つ以上並べる時(用例の項参照)。
- [] [] 内の語または字母は脱落することがある、またしてもよい：例「そのような場合 [に・は]」は「そのような場合」、「そのような場合に」、「そのような場合は」を表わす；
so'lang[e] は so'lang と so'lange の両方が用いられることを表わす；solange [als] ich spreche … は solange ich spreche とともに solange als ich spreche とともに用いられることを表わす。
- [] 発音。
- < > 前の語または語群と入れ替えてもよい：例「その<あの・この>ような」は「そのような」、「あのような」、「このような」のいずれでもよいことを、「そういうふう<ぐあひ>に」は「そういうふうに」、「そういうぐあひに」のいずれでもよいことを表わす。die Werke solcher großen <solch[er] großer> Musiker は die Werke solcher großen Musiker または die Werke solch[er] großer Musiker であることを表わし、solch ein Baum <Mann> / ein solcher Baum <Mann> そのような木 <男> では、solch ein Baum は ein solcher Baum と同じで「そのような木」の意、solch ein Mann は ein solcher Mann と同じで「そのような男」の意であることを表わす。der älteste <einzige> Sohn 長男<ひとりむすこ>は der älteste Sohn が「長男」、der einzige Sohn が「ひとりむすこ」である。

() 補足的説明。

【 】 特殊な語法を示すかつて。

- (2), (3), (4) 右肩の数字は格を示す。たとえば *etw*⁽³⁾ は三格の事物を表わしている。
 +2, +3, +4 支配する格を示す。たとえば *auf*⁺⁴ はこの *auf* の後には, 人または事物を表わす
 名詞・代名詞の四格が来ることを表わしている。

<i>eines Dinges</i>	物の二格.
<i>einer Sache</i> ⁽²⁾	事柄の二格.
<i>etw</i> ⁽³⁾	事物の三格.
<i>etw</i>	事物の四格.
<i>js</i>	人の二格.
<i>jm</i>	人の三格.
<i>jn</i>	人の四格.

繪記号一覽表

理化学

- ⊗.....物理学
- ⊖.....化学, 薬学
- ★.....天文, 気象
- ⊕.....地名, 地学
- ∅.....数学

技術・工学

- ⊙.....工業, 工学, 機械,
金属, や金
- ⚡.....電気工学, 電子工学,
電波工学, 通信工学,
電信, 電話
- ⚙.....建築, 土木, 造園
- ⚒.....鉱業, 鉱山, 鉱物
- 🖨.....印刷

生物学・医学・農学

- ♀.....生物学
- 🐾.....動物名, 動物学
- 🌿.....植物名, 植物学
- 🐟.....魚名, 漁業, 魚学
- 🐦.....鳥名, 鳥学
- 🐛.....昆虫名, 昆虫学
- 🩺.....医学, 解剖, 医薬
- 🌾.....農業, 農学, 園芸
- 🌲.....林業

法律・経済

- ⚖.....法律, 法学
- 📁.....商業, 簿記, 経済

交通・運輸

- 🚆.....鉄道
- ✈.....航空
- 🚗.....自動車
- 🚢.....海事, 船員用語
- ✉.....郵便

芸能・家庭他

- 🏊.....体育, 運動
- 🎵.....音楽
- 📷.....写真, 写真工学
- 🎬.....映画
- 👗.....衣服, 裁縫, 織物
- ✂.....料理
- 🐾.....狩猟用語
- 📖.....聖書
- 👊.....軍事, 兵隊用語
- 🎖.....紋章学

略語表 (日本語)

- B 《美》.....美学, 美術
- 《文》.....文学, 詩学, 修辞学
- G 《雅》.....雅語
- 《学俗》.....学生俗語
- 《戲》.....戯語
- 《ギ神》.....ギリシア神話
- 《劇》.....演劇
- 《言》.....言語学, 文法
- H 《反》.....反語の用法
- 《比》.....比喩の用法
- 《卑》.....卑語
- 《方》.....方言
- 《北欧神》.....北欧・ゲルマン神話
- K 《古》.....古語, 古義
- 《記号》.....記号

- M 《まれ》.....まれな語・語義
- R 《ロ神》.....ローマ神話
- 《略》.....略語
- S 《史》.....歴史, 史学
- 《心》.....心理学
- 《神》.....神話
- 《宗》.....宗教, 神学
- 《書》.....書きことば
- T 《哲》.....哲学, 倫理学, 論理学
- Z 《児》.....小児用語
- 《人》.....人名
- 《俗》.....俗語

主要文献(抄)

1. 正書法に

Duden, Rechtschreibung der deutschen Sprache und der Fremdwörter(Der Große Duden Bd. 1), 15. erweiterte Auflage, 1961, Mannheim.

Der Große Duden, Wörterbuch und Leitfaden der deutschen Rechtschreibung, 15. Auflage, 1965, Leipzig.

2. 発音に

Duden, Aussprachewörterbuch(Der Große Duden Bd. 6), 1962, Mannheim.
Wörterbuch der deutschen Aussprache, 1964, Leipzig.

Siebs: Deutsche Hochsprache, 18. Auflage, 1961, Berlin.

Viëtor: Deutsches Aussprachewörterbuch, 5. Auflage, 1931, Leipzig.

3. 古いまたは歴史的な語義や用法に

Grimm: Deutsches Wörterbuch, 16 Bde., 1854-1954, Leipzig.

Heyne: Deutsches Wörterbuch, 3 Bde., 2. Auflage, 1905-1906, Leipzig.

Paul/Schirmer: Deutsches Wörterbuch, 7. Auflage, 1960, Halle.

Paul/Betz: Deutsches Wörterbuch, 5. Auflage, 1966, Tübingen.

Götze/Mitzka: Trübners Deutsches Wörterbuch, 8 Bde., 1947-1957, Berlin.

Maurer/Stroh: Deutsche Wortgeschichte, 3 Bde., 2. Auflage, 1959-1960, Berlin.

4. 新しい語義や用法に

Der Sprach-Brockhaus, 7. Auflage, 1964, Wiesbaden.

Herders Sprachbuch, 2. Auflage, 1964, Freiburg.

Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache, 1961ff, Berlin.

Wahrig: Das große deutsche Wörterbuch, 1966, Gütersloh.

Duden, Hauptschwierigkeiten der deutschen Sprache (Der Große Duden Bd. 9), 1965, Mannheim.

Ullstein Lexikon der deutschen Sprache, 1969, Frankfurt/Berlin.

Duden, Bedeutungswörterbuch(Der Große Duden Bd. 10), 1970, Mannheim.

5. 百科事典

Der Große Brockhaus, 12 Bde. mit 2 Ergänzungsbänden, 16. Auflage, 1952-1963, Wiesbaden.

Der Neue Herder, 3 Bde., 8. Auflage, 1954-1955, Freiburg.

Duden-Lexikon, 3 Bde., 1961-1962, Mannheim.

Das Große Duden-Lexikon, 8 Bde., 1964-1968, Mannheim.

Der Neue Brockhaus, 5 Bde. mit einem Ergänzungsband 1958-1964, Wiesbaden.

Meyers Neues Lexikon, 8 Bde., 1961-1964, Leipzig.

6. 句例, 文例に(上にあげた辞典の他に)

Duden, Stilwörterbuch der deutschen Sprache. Das Wort in seiner Verwendung (Der Große Duden Bd. 2), 5. Auflage, 1963, Mannheim.

Wörter und Wendungen. Wörterbuch zum deutschen Sprachgebrauch, 1962, Leipzig.

Stilwörterbuch, 2 Bde., 1966, Leipzig.

7. 慣用句に

Borchardt/Wustmann/Schoppe: Die sprichwörtlichen Redensarten im deutschen Volksmund, 7. Auflage, 1954, Leipzig.

Friederich: Moderne deutsche Idiomatik. Systematisches Wörterbuch mit Definitionen und Beispielen, 1966, München.

Schulz/Griesbach: 1000 idiomatische Redensarten Deutsch, 1961, Berlin.

Taylor/Gottschalk: A German-English Dictionary of Idioms, 1960, München.

8. 外来語に

Duden, Fremdwörterbuch (Der Große Duden Bd. 5), 1960, Mannheim.

Fremdwörterbuch, 1960, Leipzig.

Heyse: Allgemeines verdeutschendes und erklärendes Fremdwörterbuch, 19. Auflage, 1910, Leipzig.

9. 独英辞典他

Sagara: Großes deutsch-japanisches Wörterbuch, 1958, Tokio.

Messinger: Langenscheidts Handwörterbuch Englisch, Teil II Deutsch-Englisch, 5. Auflage, 1964, Berlin/München.

Wildhagen/Héraucourt: Englisch-deutsches und deutsch-englisches Wörterbuch in 2 Bänden, 1959, Wiesbaden.

Motekat/Bourke: Brockhaus-Bildwörterbuch Deutsch-Englisch, 1960, Wiesbaden.

Schöffler/Weis: Taschenwörterbuch der englischen und deutschen Sprache, Teil II Deutsch-Englisch o. J., Stuttgart.

Deutsch-englisches Wörterbuch, 3. Auflage, 1961, Leipzig.

Wilhelm: Langenscheidts Handwörterbuch Französisch, Teil II Deutsch-Französisch, 1963, Berlin/München.

10. その他

Dornseiff: Der deutsche Wortschatz nach Sachgruppen, 6. Auflage, 1965, Berlin.

Wehrle/Eggers: Deutscher Wortschatz. Ein Wegweiser zum treffenden Ausdruck, 1961, Stuttgart.

Duden, Bildwörterbuch der deutschen Sprache (Der Große Duden Bd. 3), 2. vollständig neu bearbeitete Auflage, 1958, Mannheim.

The English Duden. A Pictorial Dictionary with English and German Indexes, 2. revised edition, 1960, Mannheim.

Kluge/Mitzka: Etymologisches Wörterbuch der deutschen Sprache, 19. Auflage, 1963, Berlin.

Duden, Etymologie. Herkunftswörterbuch der deutschen Sprache (Der Große Duden Bd. 7), 1963, Mannheim.

Duden, Vergleichendes Synonymwörterbuch. Sinnverwandte Wörter und Wendungen (Der Große Duden Bd. 8), 1964, Mannheim.

Farell: A Dictionary of German Synonyms, 1955, Cambridge.

Hoffmann: Synonymisches Wörterbuch, 10. Auflage, 1936, Leipzig.

Küpper: Wörterbuch der deutschen Umgangssprache, 5 Bde., 1963ff, Hamburg.

Küpper: Handliches Wörterbuch der deutschen Alltagssprache, 1968, Hamburg/Düsseldorf.

A

A, a [a:] *n* -/- ① アー(第一字母)。② 始め, 根本。③ ♪イ音。// *das A und [das] O* 始めと終わり; いっさい, すべて; 最も重要なもの, 精髓 / *von A bis Z* 始めから終わりまで; まるきり / *Wer A sagt, muß auch B sagen.* (ことわざ) 乗りかかった船。

à [a] *adv* ① ずつ, それぞれ。// *3 m Stoff ~ 2 DM* —メートルニマルクの布地を三メートル。

Aachen ['a:ʁən] (*n*) -s/ ㊤ アーヘン(ドイツの都市)。

Aak [a:k] *n* -[e]s/-e ㊤ ぶどう酒運送船(ライン川の); 沿岸航行船(オランダの)。

Aal [a:l] *m* -[e]s/-e ㊤ ウナギ; (俗) 魚雷。☆ *dim Älchen* ['e:lçən] // *den ~ beim Schwanz fassen* (俗) ヘマなことをする, むだばねをおる / *sich wie ein ~ winden* スラリクサリと逃げる。

aalen ['a:lan] ① *i* うなぎ釣りを。② *r* (sich) (俗) ノラクラする。// *sich in der Sonne ~* (俗) 日なたで長々とねそべる。

aalglatt *a* うなぎのようになめらかな; (俗) スラリクサリとした, ひょうたんまずの; あいそがよすぎる。

Aalreuse *f* うなぎ取りのやな。.. *strich m* 黒い糸(牛や馬の背中の)。

Aar [a:ɐ] *m* -[e]s/-e (古・雅) ワシ。

Aargau ['a:rgau] *m* -[e]s/ ㊤ アールガウ(スイスの州)。

Aas [as] *n* -es/-e ㊤ *Aser* ['e:zər] ① 腐った肉; 動物の死体。② (卑) 野郎; いやな(うい)やつ; あま。③ (製革で) 裏皮から削り取った肉片。④ (古) えき。// *Kein ~ ließ sich blicken.* (俗) 人っ子ひとり見えなかった。

aasen ['a:zan] *i* ① (俗) むだ使いする(*mit etw*³⁾ ある物を)。② (製革で) 裏皮の肉を削り取る。③ ㊤ えきを食う。

Aasfliege *f* 蚤 ㊤ クソバエ。.. *geier m* ① ㊤ ハゲタカ。② (俗) はげたか(強欲非道なやつ; 死者から奪い取る者), とうつくばい。

aasis ['a:zi:] *a* ① 腐肉の[ような]; 腐った。② いやな。③ (俗) ひどい, とてつもない。// *Er hat ~ viel Geld.* (俗) 彼は腐るほど金がある。

Aasjäger *m* (俗) 密猟者, ふらちなハンター。.. *seite f* ㊤ 裏(皮・ベルト)。

aaßen ['a:sn] *i* ① (俗) やりくりがへたである; むだ使いする(*mit etw*³⁾ ある物を)。② えきを食う。

ab [ap] ① *adv* ① 離れて, 去って; (劇) 退場; ㊤ …発。② 下へ。③ (俗) とれて, ちぎれて; すたれて; 疲れて。// *den Berg ~* 山を下って / *Hut ~!* 脱帽 / *Hut ~ vor seiner Leistung!* 彼の業績に敬意を表したまへ / *Ab dafür!* それはもう片付いた / *Ab nach Kassel!* (俗) うせやがれ / *~ und an!* / *~ und zu* とときどき; あちこちへ / *Kommen Sie ~ und zu [ein]mal!* とときどきいっしょに / *auf und ~* 上下に, あちこち / *von da ~* そこから, その時から / *von jetzt ~* 今後 / *weit ~ von etw*³⁾ あるものから遠く離れて。

② *prp*-3 …から; ㊤ …渡し。☆ (俗) では四格支配も; 「…から」の意では今日ふつう[方]。// *~ 8 Uhr* 八時から / *~ erstem [ersten] Januar* 一月一日から / *~ Lager <Werk> Hamburg* ハンブルク倉庫(工場)渡し / *~ heute* きょうから / *~ dort <hier>* そこ(ここ)から。

abackern ① *t* (まれ) すっかり耕す。② *r* (sich) (まれ) 苦勞する; 働き疲れる。

Abakus ['a:bakus] *m* -/- ① ㊤ アバクス, 頂板。② そろばん。

ab-änder-lich *a* [一部] 変更できる, 修正できる。

abändern ['ap'endərən] *t* [一部] 変更する, 修正する, 改正する。'Ab-änderung *f* -/-en [一部] 変更, 修正, 改正。'Ab-änderungs-an-trag *m* 修正動議。'ab-änderungs-fähig *a* [一部] 変更できる, 修正可能な。'Ab-änderungs-patent *n* 再発行

Aban'don [abə'do:] *m* -s/-s ㊤ ㊤ 委付。㊤ 特許。'abandon'nieren [abədo'nirən] *t* 委付する。

abarbeiten ① *t* ① 働いて支払う, 返す(*die Schuld* 借金を); 働いて消費させる; 使い古す。② (手を加えて) 取り除く。② *r* (sich) 過勞する, アクセク働く。(→ *abgearbeitet*)。

abjürgen ① *t* (古) 怒らせる。// *Ich ärgere mir die Seele ab.* 私はムシャクシャしている。② *r* (sich) ムシャクシャしている; 怒り疲れる。

Ab-art ['ap'art] *f* -/-en ♀ 変種; [比] 別種, 異種; 変質[者]。

abarten *i* (s) 変種する, 変異する; 退化する, 退廃する。'ab-artig *a* 変種の; 変質した, 退化した; (俗) 変種の。'Ab-artung *f* -/-en 変種; 変異, 変質;

abblättern *t* 枝払いする。[退化; 退廃]

abblätzen *t* 腐食させる; ㊤ 焼く(灼)する。

Abba ['aba] (*m*) ㊤ 父; 父なる神。② 師父(東方教会における司祭への呼びかけ)。

abbacken* *u/a* ① *t* (皮がはじけるほど) 十分に焼く(*das Brot* パンを)。② *i* (パン類を) 焼き終わる; 焼き過ぎにする。

abbalgen ① *t* 皮をはく(く) (*etw* ある物の)。② *r* (sich) 格闘して疲れ切る; (俗) 働いてヘトヘトになる。

Abbaside [aba'zida] *m* -n/-n (史) アッバース朝の人; (*pl* で) アッバース朝(750-1258)。

Ab-bau ['apbau] *m* -[e]s/-e ① 取りこなし, 撤去, 解体; [比] 撤廃, 解除。② (俗) 首切り, [人員] 整理; 削減(費用などの); 切り下げ; 値下げ。③ (俗) 気落ち。④ ㊤ 分解; 崩壊; 減成(分子の)。⑤ ㊤ 採掘, 採炭; 掘り尽くし。⑥ ㊤ 変種(作物の); 減収。⑦ -[e]s/-en 離れ部落。// *unter Tage* 坑内作業。

abbauen ① *t* ① 取りこなし, 取り去る, 取り払う; 解体する, 分解する。[比] 撤廃する, 解除する。② (俗) クビを切る(*jn* ある人の), 整理する; [切り] 下げる, 削減する。③ ㊤ ㊤ 分解する; 減成する。④ ㊤ (すっかり) 採掘する。// *Er ist abgebaut.* 彼はクビになった。② *i* (俗) 気落ちする; へたはる。(→ *abgebaut*)。

Ab-bau-feld *n* ㊤ 採掘場。.. *ge-rech-tig-keit f* 採掘権。.. *mittel n* ㊤ 砕解剤。.. *pro-dukt n* ㊤ 分解生成物。

ab-bau-würdig *a* 採掘して採算の合う。

Abbe ['aba] (*m*) -s/ (人) アッベ(Ernst ~, 1840-1905, 光学学者, Zeissの協力者)。

Ab'be ['a:be:] *m* -s/-s (宗) 師(フランス・カトリックで, 役を持たない僧)。

abbe-fehlen* *a/o* *t* ㊤ 命令で転任させる。

abbe-fördern *t* 移す, 運り去る。

abbe-halten* *ie/a* *t* 脱いだままでいる(*den Hut* 帽子を)。

A

'ab|beißen* i/i t かみ切る, かみ取る。// *einen* ~ 《方》一杯ひっかける。
'ab|beizen t 腐食させて取る; ☆ 焼しゃく(灼)する; ☆ 酸洗する; なあす。'Ab-beiz-mittel n 腐食剤; ペンキはく(剝)離剤; ☆ 酸洗剤。
'ab|be-kommen* a/o t ① 分けてもらう。② 《俗》受ける, こうもる(損害・傷などを)。③ 離すことができる。// *Er hat dabei was* ~ 《俗》彼はひどい目にあった/eins ~ 《俗》一発殴られる / *sein Teil* ~ 分け前をもらう; 《俗》罰をく。
'ab|be-rufen* ie/u t 呼びもどす, 召還する; 解任する。// *[von diesem Leben]* ~ *werden* 《雅》あの世に召される。'Ab-be-rufung f -/-en ① 召還, リコール; 解任。② 《雅》去世。③ 《古》= Berufung。
'ab|be-stellen t 取り消す, キャンセルする(*den Auftrag* 注文を); 来ないように言う(*jm* ある人に); 断る。
'Ab-be-stellung f -/-en 取り消し, キャンセル; 断り。
'ab|beten t ① 《宗》祈りによってあがなう。② 機械的に唱える。
'ab|betteln t ものこいてくべこ頼んでもらう(*jm etw* ある人からある物を)。
'ab|be-zahlen t ① すっかり払う, 皆済する。② 賦払いする; 少しずつ返しく払っていく。
'ab|biegen* o/o ① i(s) 曲がる(*nach einer Richtung* ある方向へ); コースを変える, [わき道へ]それる; (道が)分かれる。② t ① 折り曲げる。② 《比》はすす, [わきへ]そらす(*die Gefahr* 危険を; *das Gespräch* 話題を); まげろ(*das Recht* 法を)。③ 《俗》うまく扱う。④ 《俗》くねろ。'Ab-biegung f -/-en 分岐(道などの); コース変更; 屈曲。
'Ab-bild n -[e]s/-er 写し, 複写, コピー; 肖像, 似姿。// *Er ist das ~ seines Vaters*. 彼は父親に生き写しだ。
'ab|bilden t 写し取る, 模写する; かたどる, 肖像画にする; (ことばで)表わす。'Ab-bildung f -/-en 模写, 写し; 写生[画], さし絵, 図解; 図 Ø 写像; ☆ 図表, 線図。// *mit ~ versehen* 図解入り[の]て。
'ab|bimsen t 軽石でみがく。
'ab|binden* a/u ① t ① ほどく, ゆるめる, はすす。② 縛って取り除く(*die Warze* いぼを)。③ 縛って止むめる, 結さず(紫)する。④ 乳離れさせる(*das Kalb* 子牛を)。⑤ たがをはめる(*das Faß* たるに)。⑥ 木組みを終える(*das Gebäude* 建物の)。⑦ ✕ どろりとさせる。// *den Bären* ~ 《俗》借金を払う。② i(h) ① 結合する。② (セメントなどが)固まる。
'Ab-biß m ..bisses/..bisse ① かみ切られたもの(とくに若枝など)。② 根の短い植物。
'Ab-bitte f -/-n 謝罪。// *[bei] jm wegen einer Sache* ⁽²¹⁾ <für etw> ~ *tun* [leisten] 《書》ある人にある事で謝罪する。
'ab|bitten* a/e t ① 謝罪する(*jm etw* ある人にある事を)。② 《まれ》をいひ出せ(*jm etw* ある人に頼んである事)。
'Ab-blase-druck m ☆ 吹き出し圧力。[物を]。
'ab|blasen* ie/a t ① 吹き払う, 吹きはす; 吹いてほこりを払う, (圧搾空気などで)掃除する。② (ラッパなどを)吹いて終了を知らせる(*etw* ある事の); やめる。③ ① 初見で吹奏する。④ 噴き出す; ☆ 排気する, 蒸気を出してしまふ(*den Dampfessel* 汽かんの); (鋳造で)砂吹きする。⑤ ✕ 放射する(*Gas* 毒ガスを)。// *den Streik* ~ 《俗》ストを中止する<させる> / *Das ist noch nicht abgeblasen*. 《俗》それはまだ確実ではない。'Ab-blase-ventil n ☆ 吹き出し弁。
'ab|blassen i(s) (色が)あせる; あおさる。 (→ abge-

blaßt).
'ab|blättern ① i(s), r (sich) ① 落葉する。② はげ落ちる; ☆ はく(剝)離する。② t 落葉させる, 摘み取る。
'ab|bleiben* ie/ie i(s) 離れている; 出ていない, 欠席している。
'ab|bleichen* (i/i) ① t (弱変化) 漂白する, しみ抜く。② i(s) (強変化) (徐々に)色あせる。
'ab|blenden t, i ① (光が外に漏れないように)おおう, 暗くする; ☆ 減光する, 前照燈を下向きにする。② 音を小さくする(*das Radio* ラジオの)。③ 面 絞る; フェードアウト<溶暗>する。
'Ab-blend-kappe f ☆ ヘッドライトマスク, 減光キャップ。..schalter m ☆ 減光スイッチ。
'Ab-blendung f -/-en abblenden すること。
'ab|blitzen i ① 《俗》はなつけられる(*bei jm mit etw* ⁽²¹⁾ ある人にある事)。② 《方》から手で帰る。③ 発火しただけで弾丸が出る! // *jm ~ lassen* ある人をつけないはなつける / *Es hat abgeblitzt*. 《方》いな光がやんだ。(→ abgeblitzt).
'ab|blühen i(s, h) 花が落ちる, しぼむ; 盛りを過ぎる。(→ abgeblüht).
'ab|böschchen t 傾斜<こう配>をつける(*etw* ある物に)。
'Ab-brand [ˈapbrant] m -[e]s/..brände 焼け残り; ☆ 溶かし減り。
'ab|brauchen ① t 《まれ》使い古す<減らす・損じる>。② r (sich) 《まれ》使い古される。(→ abgebraucht).
'ab|brausen ① t 水を浴びる(*den Rücken* 背中に)。② r (sich) シャワーを浴びる。③ i(s) (うなりをあげて)走り去る(*mit dem Auto* 自動車に乗って)。
'ab|brechen* a/o ① t ① 断つ。② 折る, 折り取る(*etw von* ⁽²¹⁾ ...からある物を), 割って取る; 摘み取る, 欠く。③ 取り払う, 取りこわす, 分解する, 撤去する。④ 中止する, 中断する, 打ち切る。⑤ 減らす(*jm etw* ある人からある物を), カットする(*jm den Lohn* ある人の賃金を)。⑥ (行末で)つづりを分ける(*ein Wort* ある語の)。⑦ かきまざる(*Bier* ビールを)。// *alle Brücken hinter sich* ⁽²¹⁾ ~ 背水の陣をし / *den Umgang mit jm* ~ ある人と絶交する / *das Zelt* ~ テントをたたむ / *sich* ⁽²¹⁾ *die Zunge* ~ (発音がむずかしくて)舌をかみそうになる / *Brich dir nur keinen ab!* 《俗》ううばるな。② i(s) ① 断たれる; 折れ取れる, 欠ける; くずれる。② 途切れる, 中止<中断>される, 打ち切られる。③ 減らされる, カットされる。// *dem Arbeiter am Lohne* ~ 労働者の賃金をカットする / *in der Rede* ~ 話を中断する / *kurz* ~ 急に止まる; とん死する。(→ abgebrochen).
'ab|bremsen t ① ブレーキをかけて止める(*etw* ある物に); ② 制御する(*die Kernspaltung* 核分裂を)。③ 遅らせる; 押えつめる。③ ブレーキ試験をする; ☆ 出力試験をする(*den Motor* エンジンの)。④ 緩衝する。
'Ab-brems-klotz m 車止。..vorrichtung f 減速(制動)装置。
'ab|brennen* a/a ① t ① 焼き払う。② 焼いてきれいにする<除草する>, 焼却する。③ 放射する; 打ち上げる(*das Feuerwerk* 花火を); ☆ スパークさせる。④ ☆ 焼き戻す。② i(s) ① 焼け落ちる; 焼けてしまう, 燃え尽きる; 焼け出される。② 《俗》すかんぴんになる; から手で帰る。// *schnell* ~ ☆ 爆然する。(→ abgebrannt).
'Ab-brenn-schweißung f ☆ 火化突き合わせ溶接。..schweiß-ver-fahren n ガス溶接法。
Ab-brevia'tur [abreviˈaːtʊr] f -/-en 省略, 短縮; 略語; 略字; 略記法。
ab-bre-vi'lieren [abreviˈliːrən] t 省略する, つずめる。
'ab|bringen* a/a t ① 取り除く, 取り去る; 離れさせ